

新熊野権現社

〔飯隈山飯福寺〕
新熊野権現社
照信院

飯隈山飯福寺照信院（蓮光院）

現在の熊野神社の場所には、照信院の本社がありました。『大崎名勝誌』には、和銅元年（708年）に修験道開祖である役小角の弟子、義覚が開山し、新熊野三社権現を勧請し、本地阿弥・薬師・観音の三尊の像を安置したことが飯隈山飯福寺の由来と記されています。

また天平15年（743年）に聖武天皇の勅願所の宣旨を受け、神領の土地、一千石を支給されたことも記されています。中世以降も本山派修験の京都天台宗末寺として、聖護院や近衛家などの中央勢力や、島津各代の藩主と深く関わり、南九州最大の修験道場として君臨しました。明治初期の廃仏毀釈で寺院は破壊し尽くされました。



仁王像（町指定文化財 / 彫刻 昭和51年7月28日指定）

照信院門前の参道入口に建っていた。廃仏毀釈で破壊されたが、後に地元有志によって現在の形まで復元された。仁王像はそれぞれ上半身、腰部、下半身と3つの部分を組み合わせ造られている。吡形像の総丈は232cm、頭部40cm、腰幅95cmを測る。

鎌倉時代の作とされているが、詳細不明である。



→ 向かって左側が吡形像、右側が阿形像。江戸時代後期の『三國名勝図会』を見ると、現在立っている場所よりも国道側にあつたことが分かる。

飯福寺跡の石塔群

（町指定文化財 / 史跡 昭和59年2月25日指定）

廃仏毀釈後、長年野積みされていたものを昭和58年に調査した。宝塔21基、宝篋印塔9基、五輪塔53基、残欠相輪48基、空風輪130基、板碑3基が確認された。

大崎町教育委員会